

# 環境と共生した社会づくり

## 特集 「輝きの森」森林環境保全活動



NTT西日本和歌山グループでは、和歌山県が推進する「企業の森」事業の森林環境保全活動の一環として、田辺市龍神村にある「輝きの森」で植樹や下草刈り、間伐等を行い、環境保全に取り組んでいます。「輝きの森」は、サクラやカエデ、クヌギ等さまざまな木々を植樹や下草刈りを行いながら育てるエリアと、現有する約1,800本のヒノキやスギの木などの間伐や枝打ちなどを行い、保全するエリアのあわせて約3.28haからなります。

森林保護活動を通して、私たちが懸命に作業を進めたことで美しく整備された森から、自然環境保護に貢献することの重要性、豊かで清らかな自然の大切さや尊さについて考えることができました。

NTT西日本和歌山グループでは、これからも「輝きの森」の活動を環境保全・地域コミュニティの取り組みのシンボルとして、地域とともに積極的に取り組んでいきます。



龍神村森林組合  
代表理事組合長 眞砂 佳明さま

私たちの生業である林業は、木材価格の低迷等で大変苦しい状況が続いています。森林所有者の力だけでは切った後の再造林や保育がままならない箇所が出てきており、その解決策の一つとして「企業の森」事業にお世話になっています。NTT西日本の皆さまにおいては、環境保全に大いに貢献していただいています。皆さまには、引き続き森林整備作業や体験を通じて楽しみながら、山の生活や林業への理解を深めていただけるよう努めていきたいと思っています。



NTTビジネスアソシエ西日本 関西支店  
和歌山事業部 総務担当 湊 博行

これまでの10年間で延べ約1,000人の皆さまに保全活動へ参加いただきました。11年目となる2018年5月には10年ぶりに間伐を実施し、幹の太さ20cmほどに育ったヒノキやスギの伐採に挑戦しました。急な斜面でのこぎりを使って木を切るという、日常で体験することのない作業に約2時間、奮闘しました。当日は新聞社の取材を受け、地元PRすることができました。さらに10年間の活動延長を決定したことを受け、これからも継続した活動を展開していきます。

## 特集 防災拠点の機能向上・再生可能エネルギーの普及拡大を支援する「学校への太陽光無償設置プロジェクト」



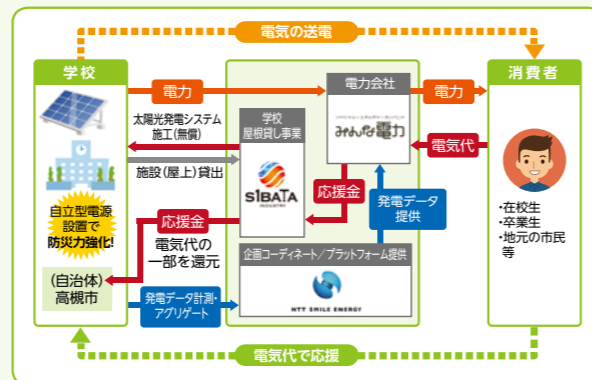
NTTスマイルエナジーは、株式会社柴田工業(名古屋)、自治体と協力し、学校に太陽光発電設備を無償で設置するプロジェクトを、2017年12月より開始しました。本プロジェクトは、NTTスマイルエナジーが学校の屋上を20年間借りて太陽光発電設備を設置。再生可能エネルギーの固定価格買取制度を活用し、電力会社への売電で収益を得て、災害時には電気を無償で学校に提供します。

自治体にとっては、災害時の避難所となる学校での自立電源の確保(防災拠点の強化)、太陽光設備の初期投資やメンテナンス費用が不要であること、屋上使用料や償却資産税による歳入増加等といったメリットがあり、2018年11月現在で4府県6自治体、約370校への導入が決定しています。

また、みんな電力株式会社と連携し、卒業生等学校にゆかりある人に電力を販売する「学校応援でんき」事業も展開しており、再生可能エネルギーを使って母校を応援でき

る日本初のサービスです。2018年1月より、大阪府高槻市の3校(市立第六中学校、市立芥川小学校、市立柳川小学校)で開始し、収益の一部は「応援金」として市に還元され、学校設備の改修等に使われる予定です。

■ビジネスイメージ



## CSR重点活動項目 脱炭素社会の推進/資源循環型社会の推進/生物多様性の保全

### 環境経営の推進

#### 基本的な考え方

NTT西日本グループは、社会全体の環境負荷低減に貢献する企業をめざし、ICTを活用した環境負荷低減や環境問題の解決に取り組み、地球規模での環境問題の解決に努めます。

### NTT西日本グループ地球環境憲章



#### 基本理念

人類が自然と調和し、未来にわたり持続可能な発展を実現するため、NTTグループ地球環境憲章に則り、NTT西日本グループはグループ会社と一体となって、全ての企業活動において地球環境の保全に向けて最大限の努力を行います。

#### 基本方針

1. 法規制の遵守と社会的責任の遂行  
環境保全に関する法規制を遵守し、国際的視野に立った企業責任を遂行します。
2. 環境負荷の低減  
温室効果ガス排出の低減と省エネルギー、紙等の省資源、廃棄物削減に行動計画目標を設定し、継続的改善に努めます。
3. 環境マネジメントシステムの確立と維持  
各事業所は環境マネジメントシステムの構築により自主的な環境保護に取り組み、環境汚染の未然防止と環境リスク低減を推進します。
4. 環境技術の普及  
ICTサービス等の研究開発成果の積極的な社会への普及を通じて、環境負荷低減に貢献します。
5. 社会支援等による貢献  
地域住民、行政等と連携した、日常的な環境保護活動への支援に努めます。
6. 環境情報の公開  
環境関連情報の公開により、社内外とのコミュニケーションを図ります。
7. 生物多様性の保全  
生物多様性と事業との関わりを把握し、生物多様性を将来世代に引き継ぐ為に、取り組みを推進します。

### 環境マネジメント推進体制



NTT西日本グループでは、「環境保護活動を推進することは社会とともにある企業の社会的責任である」という考えのもと、「NTT西日本グループ地球環境憲章」を制定し、地球環境の保全に努めています。この憲章に従い、さまざまな環境貢献目標の管理方法をISO14001を参考に「実

行管理プログラム」として編成し、数値による実行度の管理を行っています。また、各組織における環境法規制の遵守状態、実行管理プログラムの実施状況等、環境保全対象の定着度を各組織が自ら検証することを目的として、環境セルフチェックを年1回実施しています。なお、この環境セルフチェックを客観的な見地から実施するため、監査部門による環境監査を実施しています。

### グリーンNTT西日本戦略



NTT西日本グループは電力エネルギーを大量に消費する企業として、自ら積極的に省エネルギーや環境問題に取り組んでいくため、以下を柱とした「グリーンNTT西日本戦略」を2012年6月に策定しました。

- 環境グランドデザインの達成  
自らの環境負荷を低減することで社会に貢献します。
- 環境・エネルギー事業の展開  
ICT活用による事業活動の展開で環境に貢献します。
- 生物多様性保全活動の推進  
社員一人ひとりが、地域の生物多様性保護へ貢献します。

### 環境グランドデザイン



NTT西日本グループでは、脱炭素社会の実現と循環型社会の形成に向けて、特に電力使用量削減目標と紙使用量削減目標ならびに廃棄物最終処分率目標を「環境グランドデザイン」として策定しています。

#### 電力使用量削減(2020年度までの目標)

- 自責電力：2010年度比40%以上削減
- 総電力：2010年度比20%以上削減

#### 紙資源削減(2020年度までの目標)

- 総紙使用量：2008年度比40%以上削減(2008年度：3.99万t)
- 一人あたりの事務用紙使用量：2008年度比50%以上削減(2008年度：0.99万枚)

#### 廃棄物削減(2020年度までの目標)

- 全廃棄物合計の最終処分率：1.0%(ゼロエミッション)<sup>※</sup>(2008年度：2.1%)
- 撤去した通信設備廃棄物：最終処分率0.1%維持

※ゼロエミッション：国連大学が提唱した構想で、産業から排出されるすべての廃棄物や副産物が他の産業の資源として活用され、全体として廃棄物を生み出さない生産をめざそうとするもの。NTT西日本グループでは、最終処分率1%以下をゼロエミッションと定義

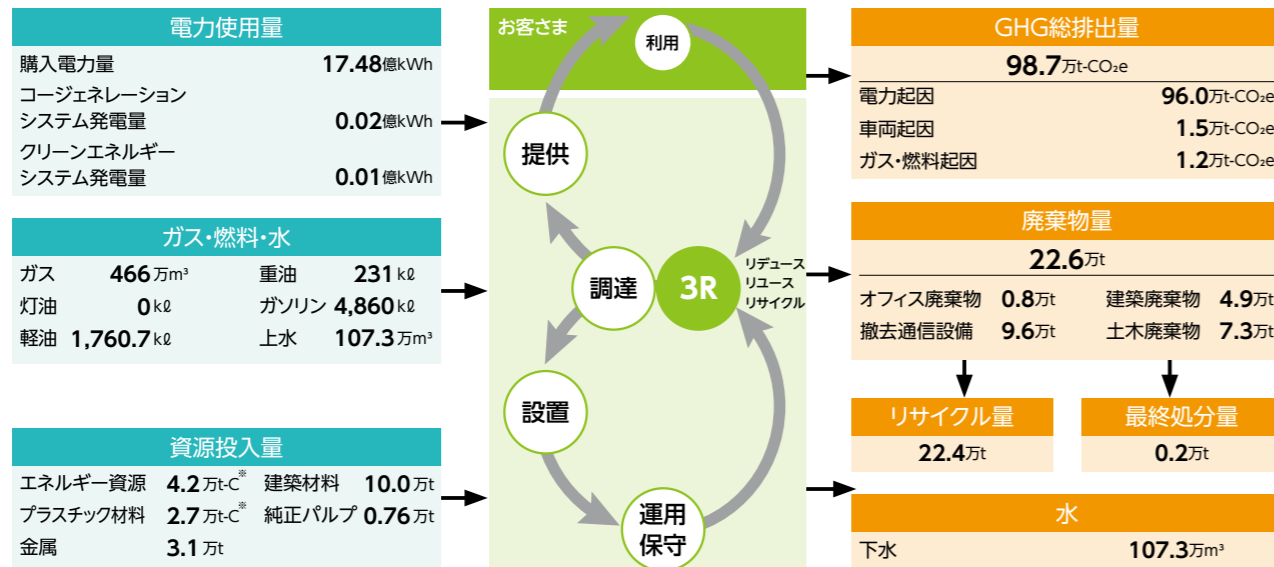
## マテリアルフロー



西日本全域で事業を展開するNTT西日本グループは、事業規模も大きく、それだけに相当の環境負荷を与えています。

たとえば、お客さまの通話を可能とするためには、電話機、西日本全域に張り巡らされた通信ケーブル、および交

### ■マテリアルフロー



※ t-C: 炭素換算の重量(トン)

換機等のネットワークが必要となり、それらに関する物流、工事、運用、サービス、商品の提供といった事業活動には大きな環境負荷が伴います。

NTT西日本グループは、下図に示すように、マテリアルフローや温室効果ガス排出のスコープ3(自社の排出以外にNTT西日本グループの事業に伴うお客さまやサプライチェーンでの排出)について定量的・定期的な把握し振り返ることにより、継続的な環境負荷の低減に役立てています。

## 環境・エネルギー事業の展開 「ソリューション環境ラベル<sup>\*1</sup>」



NTTグループでは、各社が提供するICTソリューションのうち、一定量の環境負荷低減効果があるものを「環境にやさしいソリューション」として認定し、「ソリューション環境ラベル」を付与しています。2017年度は新たに5件を認定し、これまでの認定<sup>\*2</sup>とあわせて、延べ67件となりました。

※1 ソリューション環境ラベルは、NTTグループが制定した自己宣言型(TYPE II)の環境ラベルです  
※2 認定基準は、CO<sub>2</sub>排出量を定量的に評価し、削減率が15%を超えるものとしています



### Bizひかりクラウド証明書発行サービス

NTT西日本のBizひかりクラウド「証明書発行サービス」は、大学等の教育機関が発行する各種証明書をオンラインで申請し、最寄りのコンビニエンスストアで発行するシステムです。従来の大学窓口での手続きが不要となるため、利用者・大学それぞれに伴うCO<sub>2</sub>排出量を削減できます。

### フィールドアシスタント

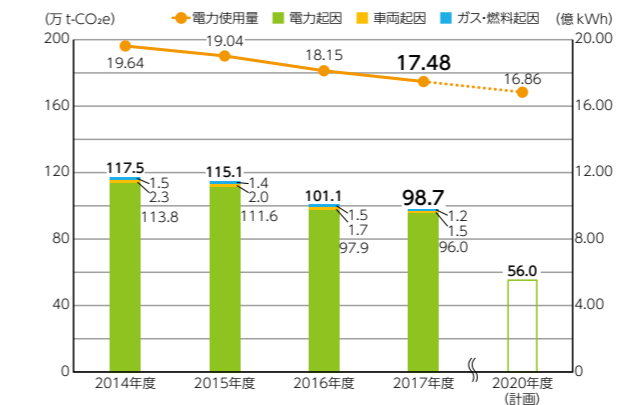
NTTフィールドテクノが提供する「フィールドアシスタント」は、電話等で行っていた通信設備や機器のオンサイト業務にあたる作業者の手配に関し、ツールを用いてマップ上に一元的に表示することで、リアルタイムかつ直感的な処理を実現します。手配作業が効率化されることから、人の稼働に伴うCO<sub>2</sub>排出量を削減することができます。

## 気候変動対策 —温室効果ガス排出量削減—



NTT西日本グループの温室効果ガス(GHG)排出要因としては、電力使用、車両使用、ガス・燃料使用があり、電力使用が要因の大半を占めています。2017年度は、2016年度に比べ約6,700万kWhの電力使用量を削減しています。

### ■GHG総排出量の推移

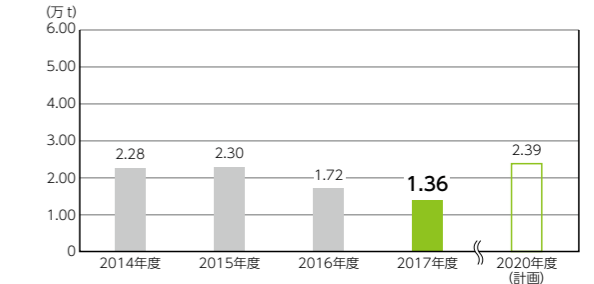


## 環境負荷の低減 —紙使用量削減—

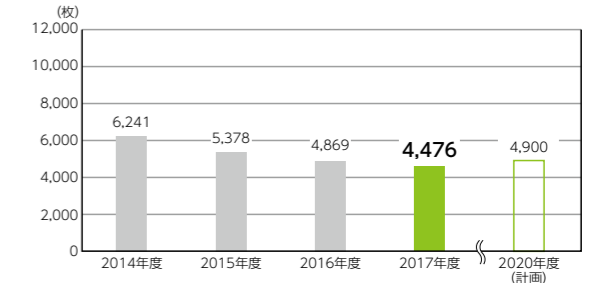


NTT西日本グループで使用する紙には電話帳、請求書、事務用紙、電報があります。2017年度の総使用量は1.36万tで、内訳は電話帳1.09万t、請求書0.13万t、事務用紙0.12万t、電報0.03万tです。ペーパーレス会議の徹底や社内利用用紙のシステム化による徹底的な削減等を進めるとともに、お客さまのご協力を得ながら、請求書の有料化等により紙使用量の抑制を行っています。

### ■紙総使用量



### ■1人あたりの事務用紙使用枚数

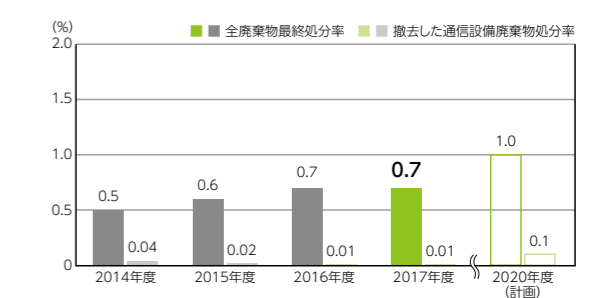


## 廃棄物最終処分率低減



廃棄物には、撤去通信設備廃棄物、土木工事廃棄物、建築工事廃棄物、オフィス内廃棄物が含まれています。2017年度の廃棄物の最終処分率は0.7%<sup>\*</sup>で2012年度から6年連続でゼロエミッションを達成しました。内訳としては、撤去通信設備廃棄物の最終処分率0.01%、土木工事廃棄物の最終処分率0.8%、建築工事廃棄物の最終処分率2%、オフィス内廃棄物の最終処分率0.5%です。

### ■廃棄物最終処分率



※最終処分率(0.16万t)÷廃棄物量(22.6万t)

## TOPIC NTTグループ一体となった環境負荷低減への取り組み



### ■脱炭素社会にむけた取り組み

ICTの発展に伴い通信のトラフィックが急増している近年、大容量の情報処理や大規模サーバの冷却等による電力使用量が増加しており、エネルギーの効率化は一層重要な課題となっています。NTTグループが「EP100<sup>\*1</sup>」「EV100<sup>\*2</sup>」に加盟したことを受け、NTT西日本グループとしても同取り組みに賛同し、国際的な環境問題への取り組み姿勢を示していきます。

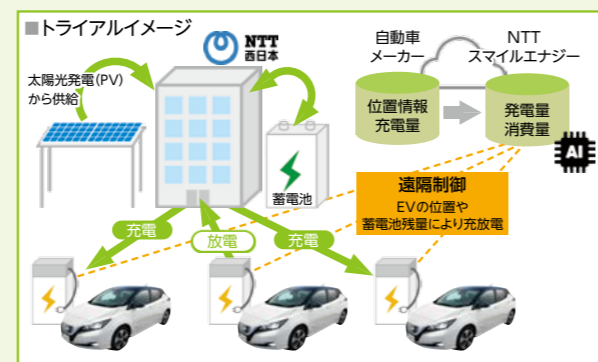
※1 EP100: 国際NGO法人[The Climate Group]が運営する、事業のエネルギー効率を倍増させること(省エネ効率を50%改善等)を目標に掲げる企業が参加する国際イニシアチブ  
※2 EV100: 国際NGO法人[The Climate Group]が運営する、企業による電気自動車の使用や環境整備促進をめざす国際イニシアチブ

### ■エコカー導入による環境負荷低減

NTT西日本グループは、化石燃料由来の電力を大量に消費する企業の責任において、環境負荷低減の取り組みに注力しています。その1つが、CO<sub>2</sub>を排出しないゼロエミッションカーである水素自動車をはじめとする電気自動車(EV)等のエコカーの社用車への導入です。

また、「地産地消型エネルギー社会」の実現に向け、国内自動車メーカーとともにEVを活用したオフィスビルでの電力相互供給モデルを構築するトライアルも行います。

NTT西日本山口支店ビルでは、株式会社NTTスマイルエナジーが推進する太陽光発電により生み出されるグリーンエネルギーの自家消費を行いつつ、ICTを活用してEV・ビル間の充放電を遠隔・最適制御することで、CO<sub>2</sub>排出量とエネルギーコストの削減をめざします。





## 環境経営へ向けた取り組み



### 「第21回環境経営度調査」で1位

NTT西日本は日本経済新聞社が実施した「第21回環境経営度調査」において、「通信・サービス」部門で全62社中1位を獲得しました。CO<sub>2</sub>排出量削減、ICTを活用した環境負荷低減、廃棄物の最終処分率低減、みどりいっぱいプロジェクトの推進等、グループをあげて取り組んできた環境対策が評価され、前回調査時の2位からランクアップしました。NTT西日本は、今後もこの発表を励みに、環境対策と経営効率の両立を地域とともに推進していきます。

### 「eco-MASTER GRAND PRIX 2017」で上位入賞

NTT西日本グループでは、社員の環境意識の醸成を目的に、eco検定(環境社会検定試験)<sup>®</sup> 資格の取得を推奨しています。2017年度は136人が合格し、累計で2,380人が取得しています。2017年7月23日に開催された「eco-MASTER GRAND PRIX 2017」では、NTTフィールドテクノ東海支店の社員が自発的に有志を募って出場し、全国9位入賞を果たしました。今後もグループ全体で環境意識向上を図っていきます。



左3番目から、表彰を受けた橋本かよさん、河合美和子さん、倉田悦子さん

#### CSR重点活動項目

### 生物多様性の保全

#### 基本的な考え方

自然環境との調和は、人類にとって重要な責務であると認識しています。社員一人ひとりが環境保全活動や生物多様性保全活動を通じ、豊かな地球環境を守っていくため、「みどりいっぱいプロジェクト」を推進しています。

### 「みどりいっぱいプロジェクト」の推進



参加者の年間目標を全30府県、1万人、新規参加者の年間目標3,000人として、18府県、約2,000人から始まりました。2017年度はNTT西日本グループのサービス提供地域である全30府県、10,140人の活動となり、自治体・NPO法人等と連携した地域保全活動や、植樹活動等が展開されました。今後も1万人をめざし、地域の生物多様性保全に積極的に取り組みます。

### 「クリーン・ビーチいしかわ」の取り組み

NTT西日本北陸グループは2006年より、「みどりいっぱいプロジェクト」の一環として、「クリーン・ビーチいしかわ」に取り組んでおり、2018年の清掃活動には、社員およびその家族等216人が参加しました。金沢市の海岸線を清掃し、大型ごみを除去する等力仕事を行う一方で、砂に埋まった漂着ごみを細かく丁寧に拾い集める作業も行いました。



「クリーン・ビーチいしかわ」当日の様子



ごみを拾い集める参加者

### 「宗像国際環境100人会議」への参加

NTT西日本グループは、環境保護を推進し、地域社会の発展に貢献する取り組みの一環として、海に関する課題の解決策を有識者とともに協議するシンポジウム「宗像国際環境100人会議」の実行委員会に参画しています。

2018年8月24～26日に開催された同シンポジウムでは、24日にNTT西日本 技術革新部の岩井 隆典環境経営推進室長が「NTT西日本グループの環境経営」と題した発表を行い、25日には福岡支店ビジネス営業部の松本 征治担当課長が「環境と経済の融合～漁業×ICT～」と題した発表を行いました。これからもNTT西日本グループが、地域の社会課題の解決に貢献できるよう取り組みの強化を図っていきます。



### 新たな環境マスコットキャラクター 八千草 結(やちぐさ ゆい)



NTT西日本グループの環境マスコットキャラクターを社員から募集し、NTTフィールドテクノの梅田 美冴紀さんが制作した「八千草 結」が選ばれました。「八千草 結」のコンセプトは、「人と自然の共存やつながり」で、地球環境の大切さを直感的にイメージしてもらえるようデザインしています。今後、「八千草 結」はNTT西日本グループの地球環境保護についてさまざまな場面で活躍していきます。

